

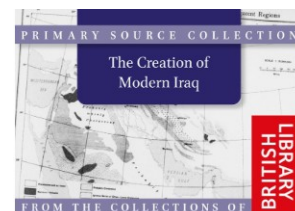
■ 世界秩序の再編とイラクの誕生——第一次世界大戦後の中東をめぐる一次資料

近代イラクの成立 1914～1921 年頃

The Creation of Modern Iraq, c. 1914–1921

オスマン帝国崩壊から近代イラク形成まで

今日のイラクの地政学的なアイデンティティは、第一次世界大戦中の英国軍による占領と、その後 1921 年に始まり 1932 年の独立まで続いた英国委任統治下の民政の確立にまで遡ることができます。本コレクションには、インド省の政治・秘密部門による機密報告書、覚書、地図、便覧のほか、政治行政の創設や社会・経済基盤の整備に関する背景情報や実務的側面を記した政策文書が含まれています。

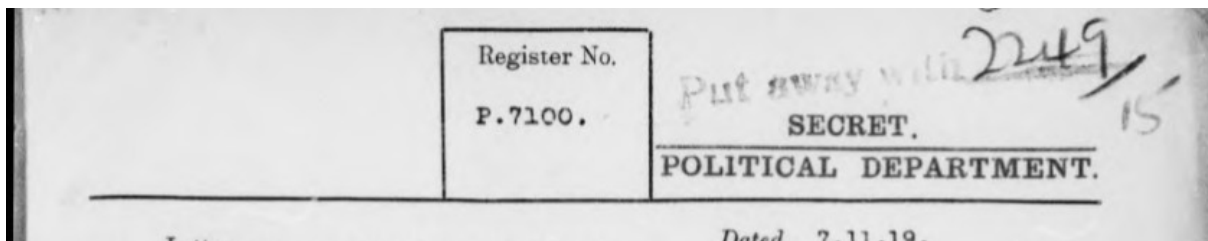


詳細なレポート

1914 年 11 月 5 日、ヨーロッパで第一次世界大戦が勃発してから 3 か月後、英国はドイツの東方同盟国であるオスマン帝国（トルコ）に対して正式に宣戦を布告しました。そして同年 11 月 22 日、英領インド軍の「D 遠征軍」（Indian Expeditionary Force “D” / IEFD）がバスラを占領し、直ちに Sir Percy Cox を政治主任官として現地に英国の行政機構を設立した。その後、英領インド軍はユーフラテス・ティグリス川を遡りバグダードに向かったが、進軍は遅れ、クトでの有名な 5 か月に及ぶ包囲戦に足止めされることとなりました。その間、Cox と少数の官僚チームは、最終的にオスマン帝国のアラビア地域全域に拡大されることになる民政政府の創設に取り組んでいました。

この行政機構の立ち上げには、Arnold Wilson や Reader Bullard をはじめ、T. E. Lawrence、Gertrude Bell、Harry St. John Philby ら当時の著名な旅行家や東洋学者も参加していました。Wilson や Bullard ら政治担当官が地方行政を統括する一方で、Bell とその同僚たちはバスラに設置された Arab Bureau's Eastern Branch のもとで、地元の有力者や部族、政治勢力に関する詳細な情報報告書を作成していました。

1917 年 3 月にバグダードがついに陥落すると、Cox はメソポタミア（現在のイラク）の民政長官に昇格、Bell が情報部門の要職である Oriental Secretary に任命されるなど、英国によるイラク統治の基盤が築かれていきました。



大学・学術機関向け

買い切り (Outright Purchase) ・同時アクセス無制限

※大学・学術機関向け IP 接続・同時アクセス無制限でのご利用となります。

※Archive 買い切りの年間管理費 (Annual Hosting Fee) は不要です。

※正式な見積価格は最寄りの弊社まで別途ご用命ください。

トライアルも承ります!! 詳細お問い合わせは弊社まで

日本総代理店 **極東書店**

FAR EASTERN BOOKSELLERS
KYOKUTO SHOTEN LTD

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル
〒600-8357 京都市下京区柿本町 579 五条堀川ビル
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴 1-3-14 小榎ビル

03(3265)7531 FAX (3556)3761
075(353)2093 FAX (353)2096
092(751)6956 FAX (741)0821

URL: <https://www.kyokuto-bk.co.jp>

E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp



新たな統治体制の確立

北部のモースルは、実際には 1918 年 11 月までイギリス軍によって占領されませんでしたが、その時点までに英国の官僚たちは、戦後の 1920 年 4 月に行われたサンレモ会議で割り当てられる予定の領土に関する詳細な情報を収集していました。サンレモ会議において、英国は新たに統合された「イラク」の統治を任される委任統治権を与えられ、同年 10 月、Sir Percy Cox がイラクの高弁参務官に任命され、バグダードに派遣されて、新たな統治体制を確立することになりました。この統治体制は、イギリス政府が委任統治下での責務を果たすという「その精神を具体化する」ものとされていました。

[“Historical Summary of Events in Territories of the Ottoman Empire, Persia and Arabia affecting the British position in the Persian Gulf, 1907–1928”, Committee of Imperial Defence, October 1928, IOR:L/P&S/20/C247A, p. 31.]

1921年3月のカイロ会議では、ファイサル・ビン・フサインがイラクの国王候補として選ばれました。

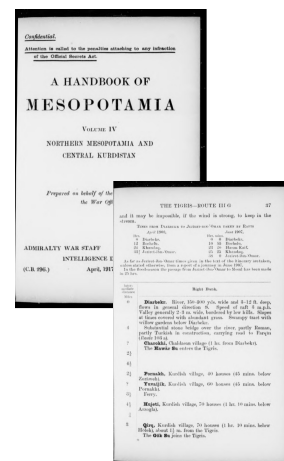
イギリスによる支配の拡大(1914年～1921年)

1914 年から 1921 年にかけて、英国の支配が徐々に拡大する中、かつてのオスマン帝国領一大戦前は「トルコ・アラビア」、戦時中は「メソポタミア」、そして戦後は「イラク」となった地域一は、ロンドンの官僚たちの大きな関心の的となっていました。情報収集は帝国支配の重要な手段であり、メソポタミアでは戦争と軍事作戦の必要性からその重要性がさらに増していました。1918 年までに、英国政府の公文書にはこの地域に関する幅広い事実資料が蓄積され、戦後には新国家の統治体制についての長期にわたる議論が加えられました。

そして1921年8月、ファイサル・ビン・フサインはバグダードで正式に即位しましたが、彼の政権の統治スタイルや詳細な政策は、すでに彼の即位以前の7年間で確立されていたと言えます。

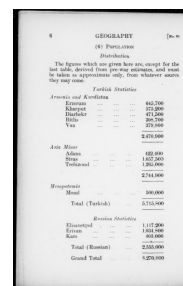
■ 文書のタイプ別に、全 10 セクションに整理されたアーカイブ

1. Gazetteers and Handbooks
2. Outbreak of WWI – Situation in Turkish Arania
3. Wartime Military and Civil Administration
4. Wartime Economy – Trade and Communications
5. Post-War Administration and Constitution for the State of Iraq
6. Local Government and Education
7. Kurdistan
8. Iraqi Boundaries
9. Post-War Economic Development
10. The Oil Industry



政治・秘密部門の主題ファイルには、機密情報報告書や、官僚たちによる詳細な報告が含まれています。その内容は、地域の政治情勢、経済・インフラの発展、石油・水資源、貿易、通貨、銀行、陸路・河川輸送、灌漑、さらには考古学や古代遺跡にまで及ぶ広範なものです。

また、主要な政策ファイルには、政治行政の創設、社会・経済基盤の整備、そして将来の憲法に関する背景と実務の側面が記録されており、特に、官僚たちは憲法の性質、アラブ人の政治参加や自治の範囲について長時間議論を交わしました。また、財政、司法、自治体制度、教育制度の整備にも多くの時間と労力を費やしていました。同時に、軍事・民間の専門家たちは地域全体の地理・地形調査を行い、南のクウェートやサウジアラビアとの国境から、北のクルディスタンに至るまでの詳細な報告を作成していました。



例えば、ロンドンやバグダードの官僚が作成した政治覚書、国際会議や省庁間会議の議事録、地方の官僚や専門家による情報報告書、印刷された報告書、地図、写真などが、数多く収録されています。これらの資料は、イラク統治の計画と実施の詳細を記録した貴重な歴史的証拠となっています。

